

重要文化財 武雄鍋島家洋学関係資料保存活用計画（案）に関するパブリックコメント（意見公募）の実施結果

件	点	ご意見（概要）	市の考え方	案の変更
1	1	歴史資料館の展示常設をして下さい。	第4章現状と課題の中で、文化財の保存と管理、公開を安全かつ適切に行っていく上で、常設展示が可能なスペースがないことについては施設の課題として記載しています。 このような中で、武雄鍋島家洋学関係資料を公開することは、市民や観光客に広く知ってもらうためには必要なことであり、現在の限られた施設の中で、企画展の充実やデジタルを利用した公開など現有施設の有効活用を図りながら、適切に保存・活用をしていくこととしています。 中・長期的には、保存環境、展示環境などの課題解決を図るため、大規模改修や建替などを含めた整備方針について検討していくとしています。	原案どおり
2	2	後藤章明・資茂・助明の処が何も書かれていません。前九年の役で源氏七騎の一騎として手柄をたて、昇殿と塚崎の地頭職に任じられた背景や嫡子の資茂が温泉里に丸隈の館を建てた事程度は記載してほしい。また、楼門のところに、1830年代木筒、砲弾、車台などの攻城が近隣にあったと記載されていますが、もう少し詳しく記載したらどうでしょう？過去と現在を結ぶテーマが色々あります。色々な企画の出発点になると思います。	ご指摘を頂きましたように、武雄の領主の家系は中世から武雄地方に住し続けてきた地域密着の一族で、その歴史を紐解けば、江戸後期から幕末にかけての活躍に限らず、多くの逸話を見ることができます。 しかしながら、今回の事業は「重要文化財 武雄鍋島家洋学関係資料」の今後の保存活用に関する計画を立案することを主眼としています。したがって、歴史的背景などについては、あくまでも概要の記述に留めることといたしました。 ご提案の事柄の紹介の企画を含め、地域に根ざした歴史についての知見を深めつつ、市民の皆様方が興味を抱き、積極的に学びを進めるきっかけとなる企画や展示を、今後検討して参ります。	原案どおり